



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

平成29年 全期の生産高及び対前年比較表

(単位:百万円)

種類別	平成29年 (1月~12月)	平成28年 (1月~12月)	増減率 (%)
水道用弁	9,220	9,185	0.4%
産業用弁	12,118	11,829	2.4%
船用弁	3,301	3,176	3.9%
鋳物素材	738	733	0.6%
合計	25,377	24,924	1.8%

平成29年 下半期の生産高及び対前年比較表

(単位:百万円)

種類別	平成29年 (7月~12月)	平成28年 (7月~12月)	増減率 (%)
水道用弁	5,324	5,087	4.7%
産業用弁	6,238	5,923	5.3%
船用弁	1,675	1,526	9.8%
鋳物素材	391	373	4.9%
合計	13,628	12,908	5.6%

平成29年 上半期の生産高及び対前年比較表

(単位:百万円)

種類別	平成29年 (1月~6月)	平成28年 (1月~6月)	増減率 (%)
水道用弁	3,896	4,098	▲4.9%
産業用弁	5,880	5,907	▲0.5%
船用弁	1,626	1,649	▲1.4%
鋳物素材	347	361	▲3.9%
合計	11,749	12,015	▲2.2%

平成29年(1月~12月)バルブ生産高調査結果

対前年比 1.8%増の 254 億円

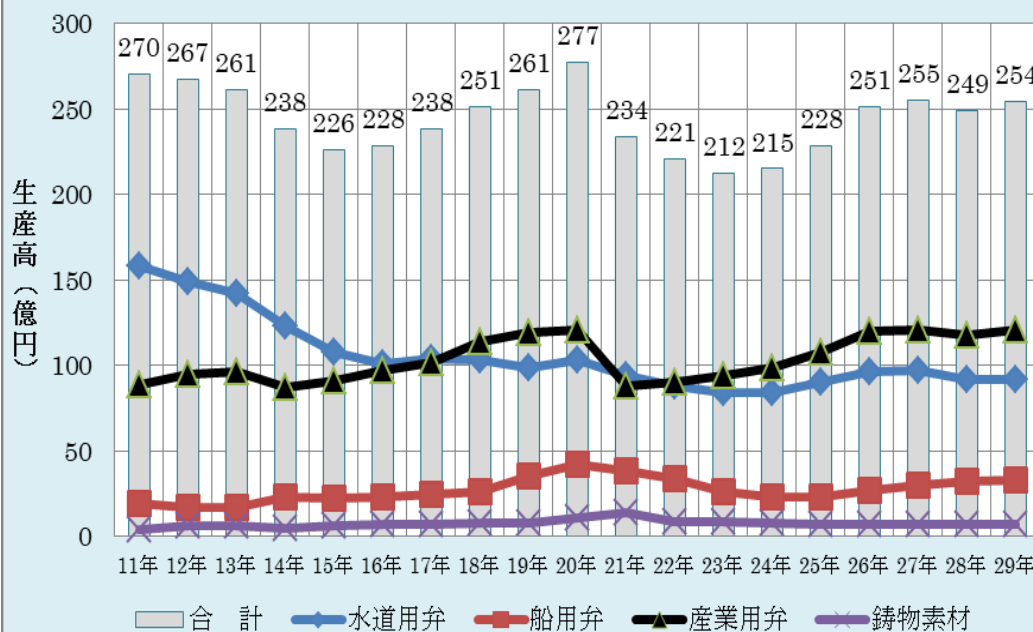
平成29年下期(7月~12月)のバルブ生産高調査(組合員22社)結果がまとまり、同年下期の生産高は前年同期比5.6%増(プラス7億2000万円)の136億2800万円となった。業種別に見ると、水道用弁が同期比4.7%増の53億2400万円、産業用弁が5.3%増の62億3800万円、船用弁が9.8%増の16億7600万円、鋳物素材が4.9%増の3億9100万円となった。

この結果上期を加えた平成29年通期のバルブ生産高は、前年比較1.8%増(プラス4億5400万円)の253億7700万円となった。業種別では、水道用弁は前年比0.4%増の92億2000万円であり、水道工事の人手不足と資材や労務費の高騰による入札不調、首都圏での昨年度から続く工事発注量の減少の影響もあり、生産高はほぼ横ばいの状況であった。産業用弁は、2.4%増の121億1800万円、一昨年の生産高水準まで回復する事が出来た。昨年秋ごろからの一部国内企業の設備投資や東京オリピックス関連需要が活況となってきたことが受注増加に繋がっているようである。船用弁は、3.9%増の33億100万円と4年連続増加した。造船所の建造ペースは落ち

ており、従来品の出荷は減少しているが、排ガス規制装置向けが好調であり増加に繋がった模様である。鋳物素材は、0.6%増の7億3800万円とバルブ生産高の影響を受け結果となった。

このように、平成29年通期生産高は一昨年度の落ち込み分をほぼ挽回する事が出来た。この1年を振り返ると、各業種とも上期は首都圏をはじめとした工事量の減少で販売が伸び悩み、原材料の高騰分も価格に転嫁できず厳しい状況が続いたが、下期になって自治体や民間の工事進捗もあって生産高が増加してきた。本年度については、東京オリピックス向け案件により首都圏は活況になると予想され、水道用弁、産業用弁とも関連工事需要が期待できる。船用弁は、排ガス規制装置向けが引き続き好調を見込める。業界全体としては前年度を上回る生産高を期待したいものである。

彦根バルブ生産高推移



新年会開催される

組合の新年会が1月19日午後6時より「やす井」で29名出席のもと開催された。中川理事長の挨拶では、平成29年生産高結果についての発表と、今年は次世代に向けて組合が取り組んでいく新たな事業展開を模索していきたいとの話があり、その後中川理事長の乾杯音頭で賑やかな宴席に移った。

